

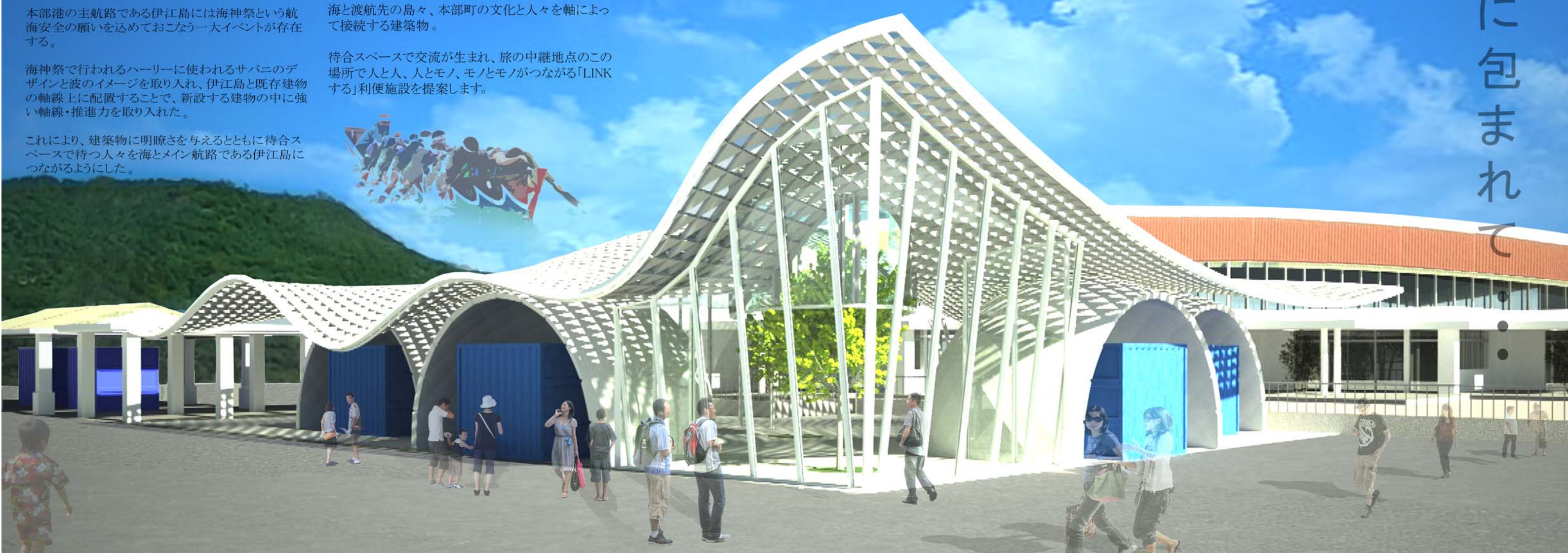
本部港の主航路である伊江島には海神祭という航海安全の願いを込めておこなう一大イベントが存在する。

海神祭で行われるハーリーに使われるサバニのデザインと波のイメージを取り入れ、伊江島と既存建物の軸線上に配置することで、新設する建物の中に強い軸線・推進力を取り入れた。

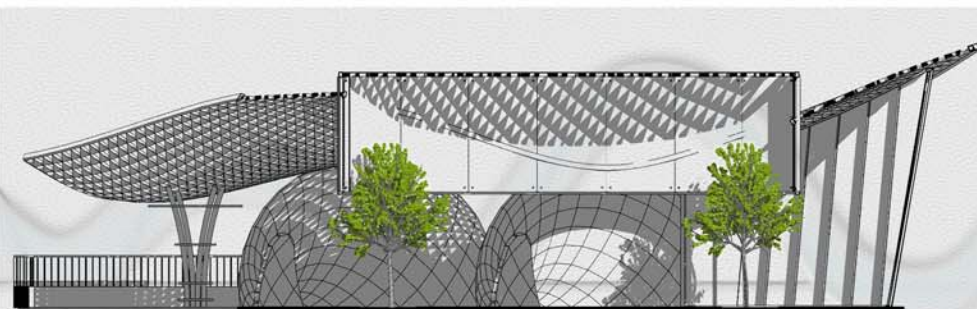
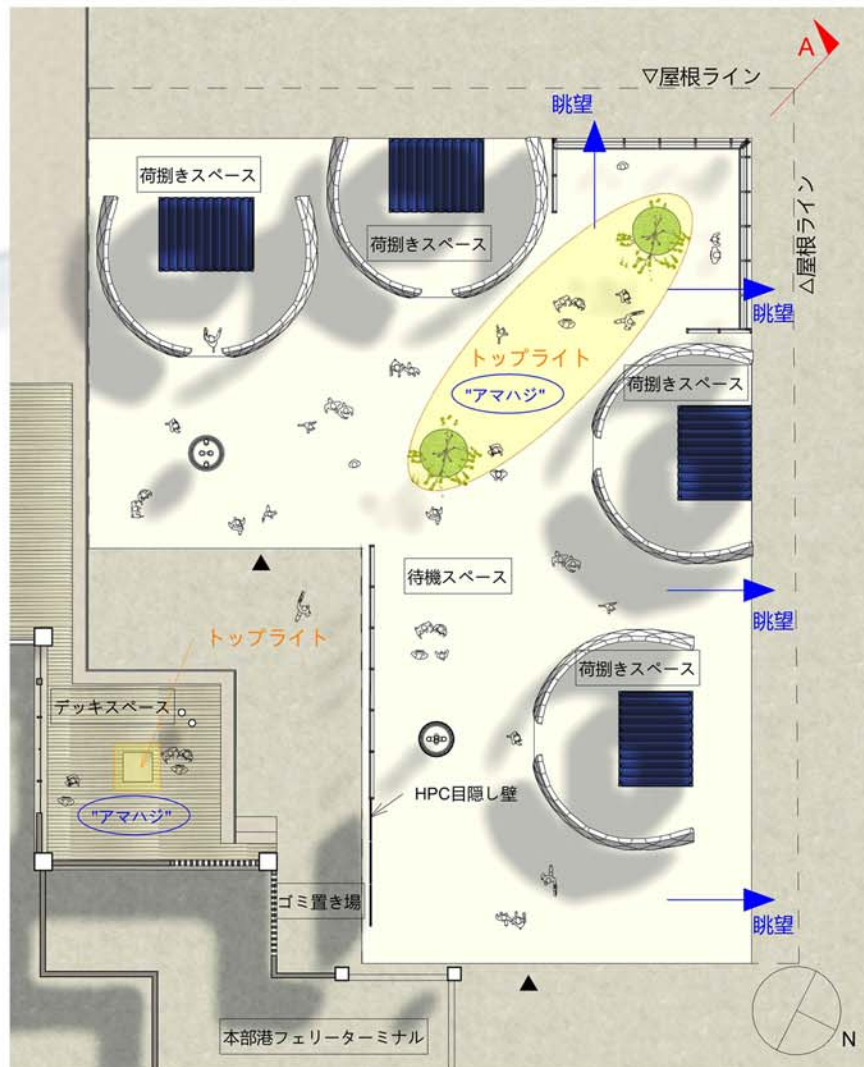
これにより、建築物に明瞭さを与えると同時に待合スペースで待つ人々を海とメイン航路である伊江島につながるようにした。

海と渡航先の島々、本部町の文化と人々を軸によって接続する建築物。

待合スペースで交流が生まれ、旅の中継地点のこの場所で人と人、人とモノ、モノとモノがつながる「LINKする」利便施設を提案します。



柔らかな光と影に包まれて



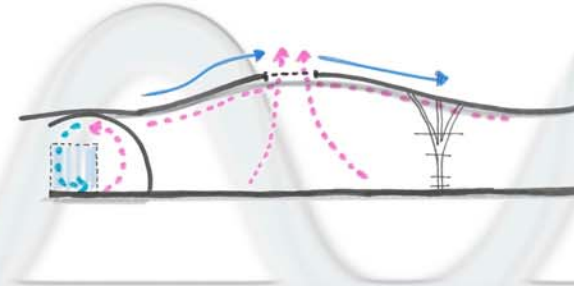
Section A-A

**-Plan & Section-**

コンテナ置き場をドーム状のプレキャストコンクリートにし、シェル構造の屋根と接続させ、鉄骨柱と共に屋根を支える役割を持たせた。

既存建物の「本部港フェリーターミナル」は沖縄の民家に見られるアマハジの伝統的手法と木製デッキで「出会いと交流」を演出している。新設する建物は、このアマハジの手法を取り入れている。屋内と屋外のあいまいな空間をトップライトと樹木の配置で創り出し、既存の建物と新設の建物とが緩やかにつながるように設計した。

屋根はシェル構造とし、軽量で耐久性に優れているETFEフィルムを使い透明フィルム・白色フィルムをトラス状に組み合わせる。待合スペースにはまるで本部町の町木である「フクギ並木の木漏れ日」の光と影が写し出され、人々の交流・つながりをやさしい光と影が包み込む。



**-Sun & Wind Control-**

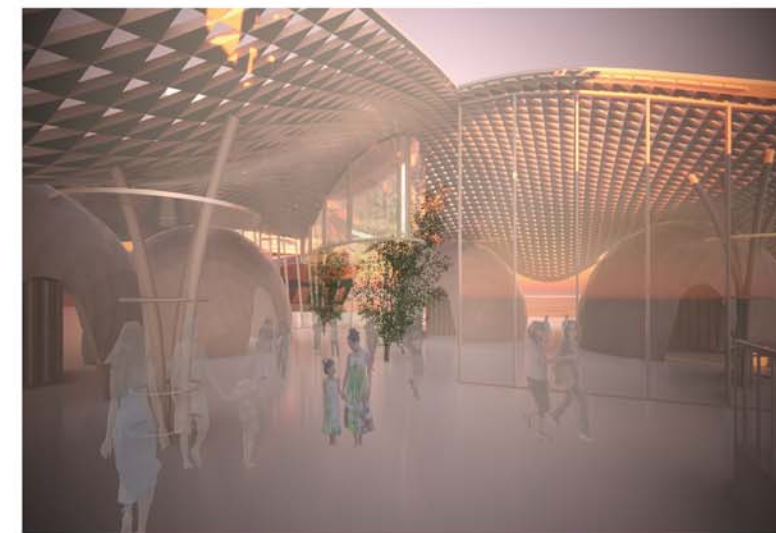
屋根をシェル構造の起伏のある波のデザインにし、風を受け流す道をつくった。波型屋根の頂部に膜を張らない箇所を設け空気が上部に抜けやすくすることで、建物の中の暖かい空気が外に吸い出されるようにした。また、コンテナ置き場にドーム型を採用することによってドームの中の空気循環も可能にした。



待合スペースの内部に高いトップライトを設け空気が上部へ抜けるチムニーの役割を持たせた。屋根起伏とドームの空気循環とあわせて室内環境を整える。

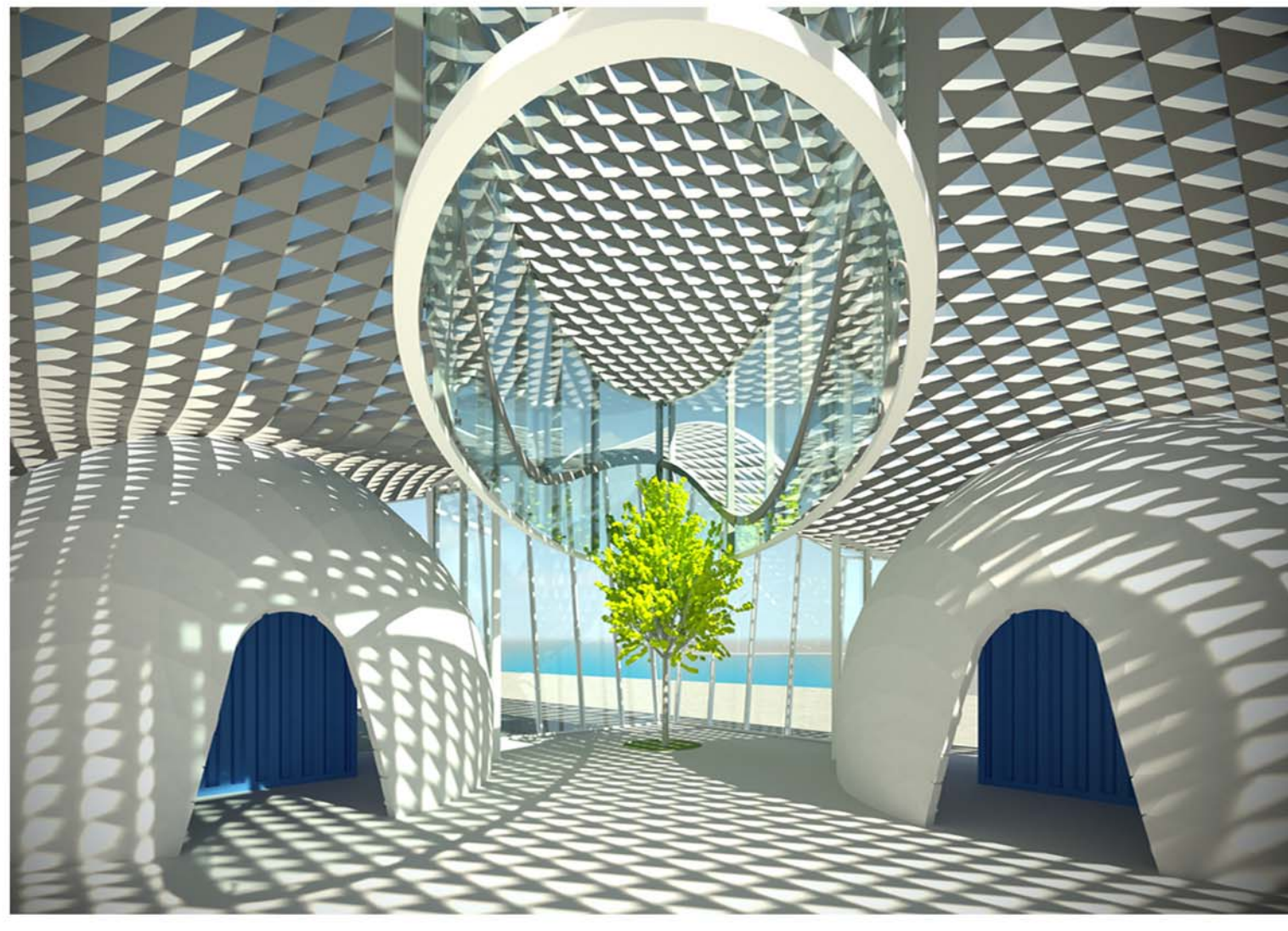
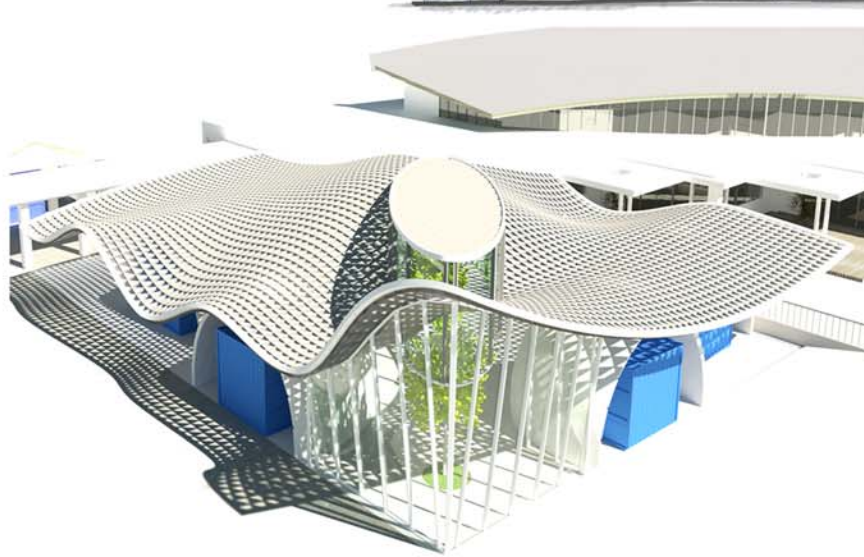
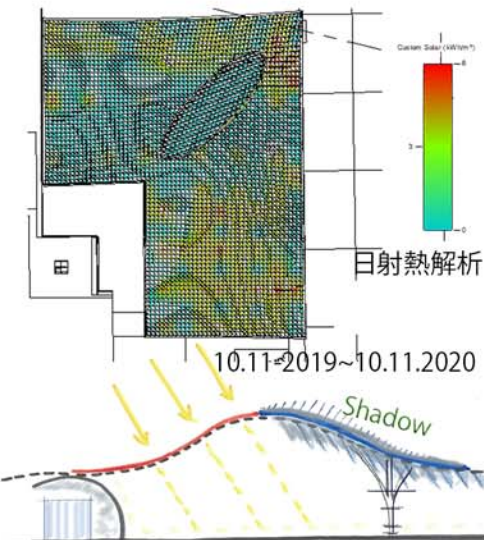


フクギの光と影



**-Solar Radiation-**

波型屋根の山の片方には直射日光が当たり温度が上昇することに対し、山の反対側は影ができる。屋根の日射熱のシミュレーションをすると、直射日光が当たっている箇所は赤色(温度が高い)だがそれ以外は緑・青色(温度が低い)になっており、年間を通して日射熱の負荷を軽減している。



**-Life Cycle Cost-**

- ・鉄骨造は錆止め塗装を施し、コンクリート部には県内技術のケイ酸塩系無機質コーティング剤を塗布することで、塩害対策・メンテナンスフリー化によるコストダウンを図る。
- ・軽量のETFEフィルムを屋根材とし、建築躯体への負荷を軽減、耐震性の向上をさせる。耐久性と防汚性を兼ね備えている素材なためメンテナンスの簡素化を図る。
- ・ドームはプレキャストコンクリートを使用し、目隠し壁には耐久性のあるハイブリッドプレストレストコンクリート(HPC)を使用することで工期短縮とコスト削減を図る。
- ・基礎等の配筋は近隣施設である本部港立体駐車場が使われている、溶融亜鉛メッキ鉄筋を使用し、塩害対策をするとともに、建物の長寿命化を図る。

**-Data-**

- ・構造: 鉄骨造 一部プレキャストコンクリート造
- ・規模: 平屋建て
- ・建築面積(屋根面積): 581.2㎡
- ・最高高さ: 7.6m
- ・地盤改良: 施工性が良く、短工期で費用を抑えられる浅層改良を採用し、改良深度は液状化が懸念される5mまでとした。